令和7年9月22日

「エイジレス章」及び「社会参加章」の伝達式を行います

このたび、高齢社会における生き方の例として長野市から内閣府へ推薦しました方々が、長寿社会を生き生きと暮らす好事例として選定されました。

つきましては、内閣府から贈られた書状と記念の楯の伝達式を以下のとおり行います。

1 受章者・受章団体

(1) エイジレス章

- ・石井 晴美 様（信州新町在住）
- ・竹田 ユキ子 様（風間在住）

(2) 社会参加章

- ・松代復興応援実行委員会 様（松代地区）

2 日時・場所

令和7年9月26日（金）16時から
長野市役所 第一庁舎5階 市長応接室

3 伝達

長野市長から

4 贈呈品

書状・記念品（楯）

5 その他

当日取材を希望される場合は、事前に担当までご連絡をお願いいたします。

保健福祉部高齢者活躍支援課

（課長）轟 貴彦（担当）宮原 晴香

TEL：026-224-5029

FAX：026-224-5126

E-mail：kourei@city.nagano.lg.jp

エイジレス・ライフ実践事例エイジレス章及び 社会参加活動事例社会参加章概要

1 目的

内閣府では、高齢者が年齢にとらわれず、希望に応じて意欲・能力をいかして活躍できるエイジレス社会を目指し、平成元年度から、エイジレス・ライフを実践している方及び地域において社会参加活動を積極的に行っているグループ等を表章するとともに、広く紹介するもの。(内閣府ホームページ https://www8.cao.go.jp/kourei/kou-kei/age_list_all.htm)

2 概要

(1) エイジレス・ライフ実践事例 (エイジレス章・個人)

年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由に生き生きとした生活を送ること(エイジレス・ライフ)を実践している高齢者であって、今後も継続して実践すると認められる者

(2) 社会参加活動事例 (社会参加章・グループ等)

主体的に社会と関わりを持ち、現に積極的な社会参加活動を行い、今後も継続的に活動が行われると認められるグループ等

3 令和7年度各章の選考状況

エイジレス章：全国32件、長野県内で長野市推薦の2名を含む3名が選考されました。
社会参加章：全国32件、長野県内で長野市推薦の1団体を含む2団体が選考されました。

4 受章者実践事例・受章団体活動事例内容

(1) 石井 晴美 様

ふるさと岡山県の伝統芸能である宮坂流津山銭太鼓を平成11年頃から習い始め、同じ頃に地元の南京玉すだれの会に入会。現在では長野連合の支部長や会の代表を務めながら、後進の指導や地元文化祭への出演等積極的に活動している。更に平成20年より三味線の小唄を習い始め、伝統芸能の造詣を深めるとともに、社会福祉施設への慰問講演を継続的に実施する中で社会貢献にも努めている。一方で、地元で焼かれた木炭を活用し、炭の土台に草花を植え鑑賞を楽しむ「炭アート」の製作を始めた。自作品や活動が話題となり、

自分も作ってみたい、自宅へ飾りたいという声が増えたことで、公民館等の教養講座企画に取り上げられるようになり、講師として活動している。地域資源の有効活用だけでなく、地元住民の交流の場や生きがいの創出等にも貢献している。

(2) 竹田 ユキ子 様

プールの監視員を経て水泳のインストラクターとして、未就学児～小学校低学年及び婦人を対象とした水泳教室の指導を約40年実施した。水泳が好き、自分のこれまでの経験を活かして地域住民に貢献したい、歳を重ねたときに水の中で動ける身体を作りたいと考えたことから、平成17年からは自宅の事務所を開放し、週2回高齢者を対象とした運動教室を実施している。加えて、平成21年からはノルディックウォーキングの指導資格をとり、年1～2回公民館活動の講師を引き受け活動、コロナ禍以降は週2回ノルディックウォーキング教室を実施、平成30年からは市民プールで、週2回水中運動教室を実施している。参加者のニーズに合わせた教室運営をしており、参加者からの信頼も厚く、地域住民の生きがいづくり、仲間づくり、健康づくりに貢献している。

(3) 松代復興応援実行委員会 様

令和元年東日本台風で被災した松代町において、復旧復興支援を行うために結成されたボランティア活動団体であり、現在では被災体験を活かした防災活動に取り組んでいる。被災者の居場所づくりとして始めた「まちの保健室」は実行委員会の構成員、またこれを利用する方の相談場所やコミュニケーションの場として現在もつながりを持っている。応援イベント等の被災者応援活動を始め、防災教材開発及び作成等の防災活動、啓発イベント等の継続事業を積極的に実施している。また、地元小学校や行政と協働で事業を実施したことで連携が強化し、地域防災力の向上に貢献している。加えて人材育成の研修会には小中高生から高齢世代まで参加があり、多世代交流の場になるとともに、高齢世代がリーダー的な役割を果たしている。